

: . ° ☆。 , :: . ★。 , :*: . ° ☆。 , :*: . ° 。 , :*: . ° ☆。 , :*: . ★。 , :*: . °



みらいっうしん

3月号

2023年3月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦 芳子

: . ° ☆。 , :: . ★。 , :*: . ° ☆。 , :*: . ° 。 , :*: . ° ☆。 , :*: . ★。 , :*: . °

子どもの成長を見守って

温かい日差しを浴びて、園庭の梅の花も赤く色づき、子ども達に「春だよ！」と春の訪れを優しく教えてくれています。いよいよ園生活は年度の締めくくりの時期を迎え、各クラス、進級や進学を視野に入れて活動を行っています。

さて、令和4年度も、あと1か月余りとなりました。子ども達の会話の中ではもうすぐ進級することを意識しているのか「〇〇組になるんだよ！」「自分で〇〇出来るよ。すごいでしょ！」という声も聞こえ、それぞれが就学、進級と期待に胸を膨らませて、園生活を楽しんでいます。いろいろな体験をしてきた中で出来ることも多くなったことが、喜びや自信につながり、どの子も大きく成長した姿は、入園当初の頃がととても懐かしくさえ感じます。特ににじ組さんは、園を巣立っていきますので、感無量の気持ちでいっぱいになります。

先日、にじ組さんとそら組さんが作ったお店屋さんで楽しむ「みらいランド」が、2日間に渡り行われました。今年は、お店のほかにも、温泉やアイドルショーなどもあり、バラエティー豊富なコーナーがありました。お店に並ぶ作品もクオリティーが高く、本物そっくりで、見ているだけでも楽しめるものがたくさんありました。この日を迎えるにあたって、何のお店がいいのかみんなで話し合いましたが、なかなかやりたいもののイメージがわからず、作品づくりに取り掛かるまで時間がかかりました。一度イメージが整うと水を得た魚のように生き生きとした表情で、「こうしたらいいかな？」「たくさん売れるかな？」「楽しんでくれるかな？」などと、それぞれの思いをもってお店づくりを行っていました。しかし、いざ、お店をオープンする際に、「どうやって売ったらいいのかわからないのか」「なんて声を掛ければいいのかわからないのか」「どうしよう。分からないよ」と悩む子もいました。その姿を見た時、大人は売り買いのイメージが浮かんでも、子ども達の生活の中には、『いらっしゃい』『ください』のやり取りは、未経験で、お店屋さんごっこのやり取りは子どもにとっては理解が難しいのだなと気づかされました。しかも、スーパーでの買い物や無人レジでは、買い物で会話することはほとんどない背景を考えると、遊びは、まさに生活に密接していることを改めて感じました。当日は、保育者が、寄り添って「こうしたらいいんじゃないと声をかけると、次第に売り買いの意味を理解し、自信を持って乳児さんやほし組さんに、優しく声をかけ、お店屋さんごっこを楽しんでいました。どこのコーナーも活気があり、満員御礼で子ども達の満足そうな笑顔であふれていました。

子ども達同士が対話を楽しみながら、笑ったり試行錯誤したりした活動から得た経験は、大きな糧となったことと思います。また異年齢の友達と関わることで、思いやりの気持ちも膨らみ、人との関わり大切さもたくさん学ぶことが出来ました。乳児さんやほし組の子ども達も、たくさん品物を買うことで、きらきらとした眼差しを浮かべながら、「僕もやってみたい、私はあれがいい」「素敵」等いろいろな思いを素直に発言し、楽しんでいる姿も見られ、それぞれが次へのステップを目指す良い刺激を受けていました。みらいこども園は、日頃から人との関わりをととても大切にしていますが、どういう出会いをするかによって、将来の目標や目的が見つかると思います。これからも友達との絆が深まり、普段の遊びがより一層広がり、子ども達の成長に繋がって欲しいと願っています。

にじ組さんと過ごす日々は残り少なくなりました。園生活の中で出会う様々な発見にとときめき合い、友達や保育教諭と喜びを分かち合ってきた日々を思い出すと、子ども達の笑顔と成長が目に見え胸が熱くなります。この思い出を胸に小学校入学への良き架け橋になるよう締めくくり胸を張って入学して欲しいものです。また、進級を迎える子ども達についても、自信を持って次へのステップに進めるよう、職員一同気を引き締めて、教育・保育に臨みたいと思います。一年間の保護者の皆様のご理解とご協力、本当にありがとうございました。

